

【解説編】

3. 日本における公共空間の使い方の特徴

～「仮設的・可変的な活用」と「境界の曖昧性・空間の伸縮性」～

3.1 なぜ日本の歴史、気候、西欧との比較なのか

【検討会での主なご意見】

- いろいろな都市で培われてきた生活文化の中には、**プレイスメイキング的なこと**はいくらでもある。我々が日本でプレイスメイキングを考えるのであれば、**歴史**をしっかり勉強、当然そういうものを踏まえながら、活かす必要がある
- **気候**などを配慮しないと、それこそ使われないものになってしまう
- 西欧は昔から**個人主義**が強いが、日本では個の確立はそれほどでもないので、そのような人たちが本当に心地よくいられる空間とはどのようなものか
- 西欧的な個人主義の**文化**と、日本人のもう少し協働の**文化**では、たたずんだときの気持ちよさの感覚が異なるのではないかと、直感としては思うことがある

【文献より】

- 人々が座り、歩き、自転車に乗る、その場所の**気候**条件は、都市空間の快適さと満足に最も大きな影響を及ぼす要因のひとつである。
～「人間の街」(ヤン・ゲール著(北原理雄訳)、鹿島出版)～

【事務局の理解】

- 日本でプレイスメイキングを実践するにあたっては、**歴史**や**気候**、**公共空間活用に対する西欧との意識の違い**を踏まえることが必要である

3.2 公共空間に関する歴史（日本の広場の特徴）

【文献より※】

- 江戸時代までの日本には、西洋等にあるような一般的な独立した広場はなく、広場は「本来広場でないオープン・スペースを広場化することによって存在してきた。」
- 「広場化の過程のなかで、屋台、掛茶屋、見世物小屋など、さまざまな装置が持ち込まれる。これらはいずれも移動できるものであり、仮設的なもので土地に定着していない。」
- 「たとえば、江戸の広小路に置かれていた掛茶屋などは、将軍お成りのときには撤去しなければならなかった。」

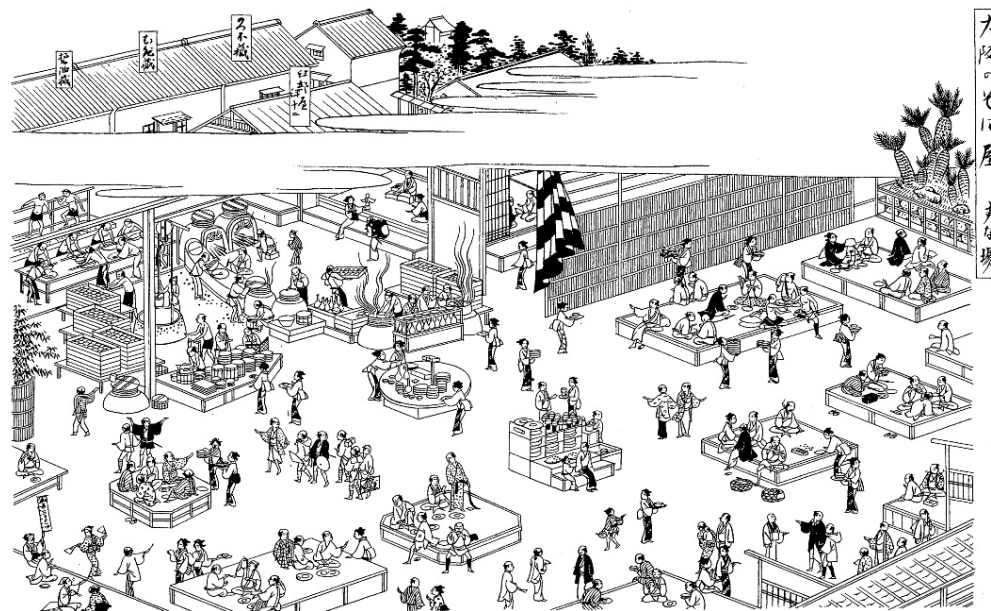
～「日本の広場」(都市デザイン研究体編著、彰国社)～

※「 」内は文献からの引用であるが、読みやすくするため事務局にて言葉を補足。以下同様。

【事務局の理解】

- 日本はもともとプレイスメイキング的なことを行っていた
- 特に、土地に定着していない**仮設的なもの**は、古くから使われている

江戸時代 大阪のそば屋



画像出典：三谷一馬 絵

3.2 公共空間に関する歴史（日本の広場の特徴）

【文献より】

- 「**空間の伸縮**」は「主として道路の広場化のときに現れ、基本的には**伝統的な日本建築の特性**」つまり「**わが国の間仕切りは直接には襖、障子、格子、戸板など、取りはずしが自在である**」ことに、これは由来している。」取りはずすことにより、「**店の間は道路空間と連続**し、広場化された空間は日常時よりそれだけ拡大されたのである。」
～「日本の広場」(都市デザイン研究体編著、彰国社)～
- **縁側**は「夜間および風雨の激しいあいだはこれ(=**雨戸**)によって戸締まりをする。」雨戸を開けているときは「一時的な来客には縁側で応接することが多」く「火鉢やタバコ盆を持ち出し、茶や菓子を出す。夏の夕方などは、なかの畳敷の部屋よりもはるかに涼しく、**目前の庭とも相俟って格好の気晴らしの場所**となる。」「子供たちが遊ぶ場所でもある。」

～「日本人の住まい」(E.S.モース著、八坂書房)～



写真出典：（左）事務局撮影、（右）渡座長提供

3.2 公共空間に関する歴史（日本の広場の特徴）

【事務局の理解】

- 日本建築はもともと境界を曖昧にできる構造となっており、戸締りをしつつ空間を伸縮させることで、そこで自由な活動を創造的に行ってきた

江戸時代 茶屋



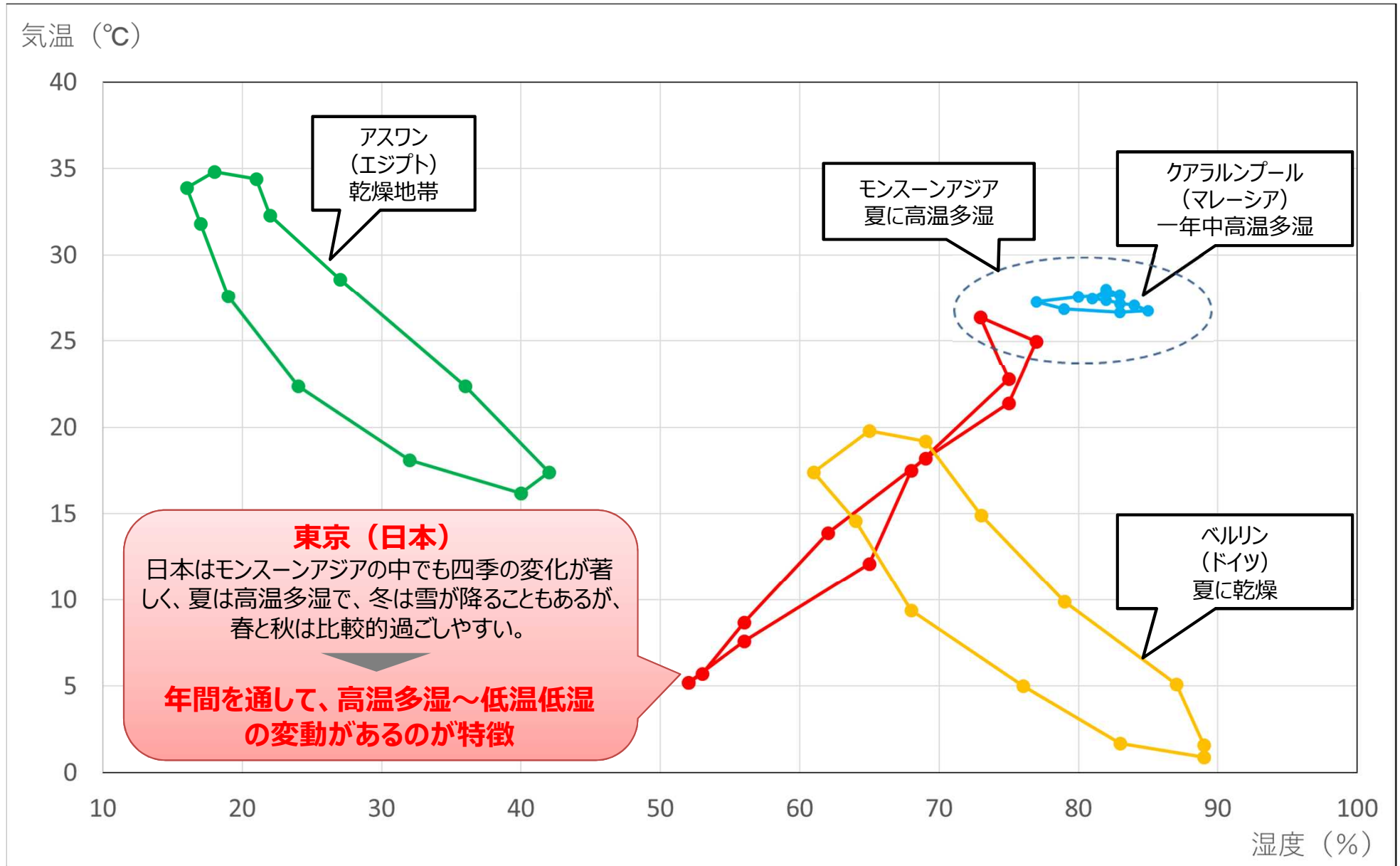
3.3 日本の気候への対応

【文献より】

- 「亜熱帯から温帯にわたる我が国では夏の太陽はあまりに強く、戸外に長く立ちつくすことは生理的に耐えがたい。またモンスーン地帯に属することで、雨量も雨天の日も多く、しばしば強風を伴う。」
～「日本の広場」(都市デザイン研究体編著、彰国社)～
- 日本は「夏が高温、冬が低温で、気温の年比較差が大きく、四季が明瞭である。」
～「世界がわかる地理学入門」(水野一晴著、筑摩書房)～
- 高緯度で特に冬の半年間の日光が乏しい西欧の人々は「日光浴を、夏の間にも熱心にやっておこうとする。夏の公園や広場はこの日光浴の人で充たされている。我々がやや暑さを感じて日陰をえらんで歩くような時にさえも、人々は日向のベンチに坐してじっと日光を浴びているのである。」
～「風土－人間学的考察－」(和辻哲郎著、岩波書店)～

3.3 日本の気候への対応

■ 気温・相対湿度の月別平年値※¹に関するクライモグラフ※²



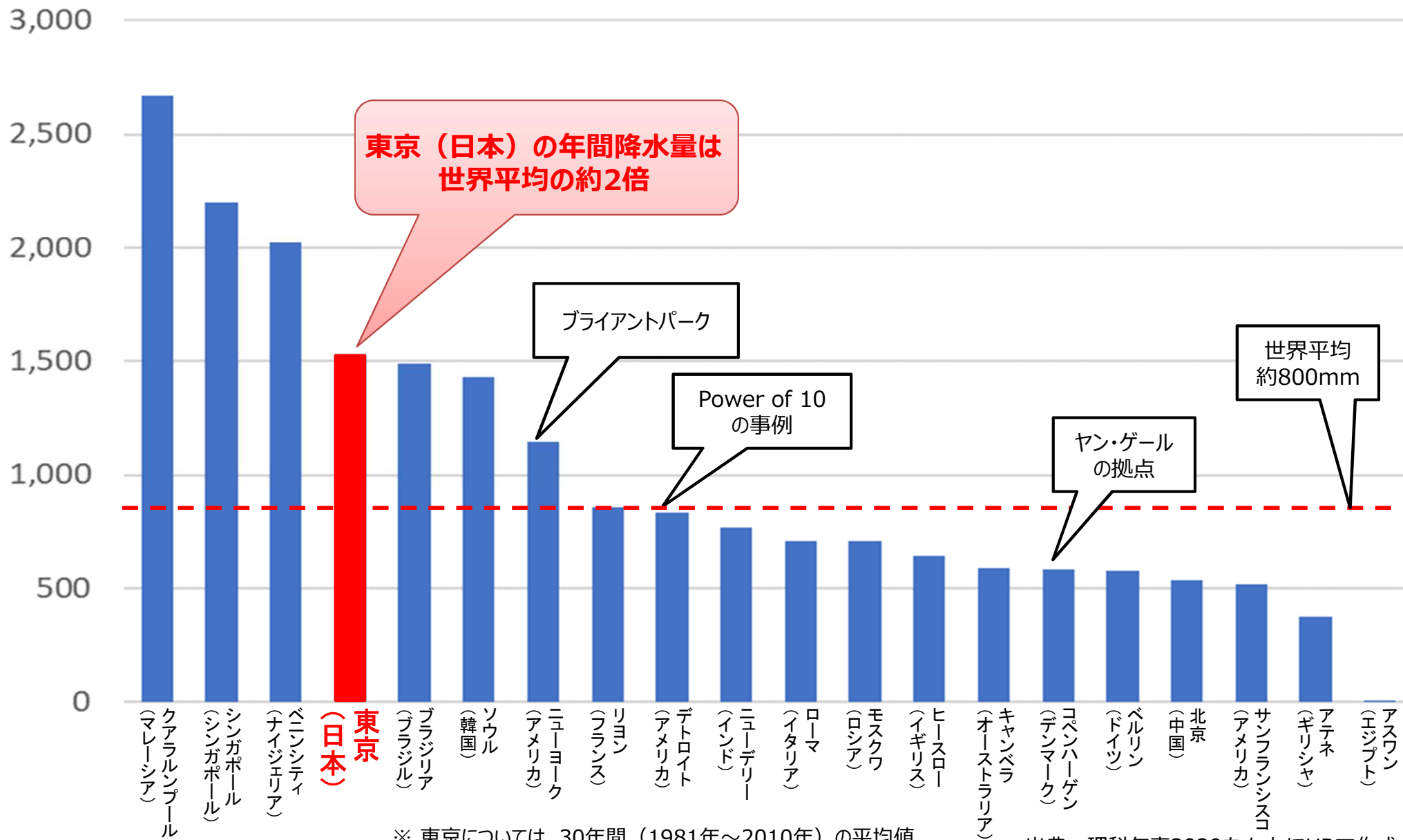
※¹ 東京については、気温・相対湿度ともに、30年間（1981年～2010年）の平均値

※² 縦軸に湿球温度、横軸に相対湿度をとり、その毎月の平均値を記入し、月の順に直線で結んだ図

3.3 日本の気候への対応

■年間降水量の平年値*

降水量 (mm)



* 東京については、30年間 (1981年~2010年) の平均値

出典：理科年表2020をもとにURで作成

3.3 日本の気候への対応

【文献より】

- 江戸時代までは「寺院が広場化されることは、本堂や庫裡(くり)を使えるという点で、**木陰**の多い神社境内は夏の日差しを避けられる点で、好都合であった」。
～「日本の広場」(都市デザイン研究体編著、彰国社)～
- 「**庇**は、一般に家の縁側などのような開放部を直射日光や雨から守る役割を果たしている。」
～「日本人の住まい」(E.S.モース著、八坂書房)～
- 降雪地方には昔の「**雁木**」もあるが、今は「**アーケード街**」が都心付近の主役になっている。」
～「かいわい－日本の都市空間－」(材野博司著、鹿島出版会)～

【事務局の理解】

- 日本では昔は、**寺院や神社**のほか、空間の伸縮の例である**道路空間と連続した店の間、庭と連続した縁側と庇**が、日差しや雨を避けて活動できる場所として機能していた



3.3 日本の気候への対応

【文献より】

- 「わが国では、とくに夏においては両国橋広小路の納涼や縁日などのような夜の行事による広場化が多くみられる」。

～「日本の広場」(都市デザイン研究体編著、彰国社)～

【事務局の理解】

- 日本は気候の変化が激しいことから、日差しや雨を避けるためには、物理的な対応以外に、居心地の良い時間帯や天候や季節を選ぶということも有効な策であり、仮設性と親和性がある



歌川広重

「東都名所高輪廿六夜待遊興之図」

(神奈川県立歴史博物館蔵)

二十六夜待は7月26日の夜に、月の出を待って拝む風習のことであるが、芝高輪や深川の海辺、また湯島や神田の高台は人々で賑わい、月見客相手の店や芸人も出た。

3.4 公共空間活用に対する意識（日本と西欧の相違）

【文献より】

- 「西欧の家の中では外にいる時と同じように靴をはいているのに、わが国では家の中では靴をぬいでいる」 「靴をはいたまま暮らす西欧的雰囲気とは、独立した個の対立による外的秩序の空間であり、靴をぬいで暮らす日本的雰囲気とは、わけへだてのない個の集合による内的秩序の空間である」。
- 「西欧の生活の中には外的秩序の考え方があり、日本の住いの中で行われるようなことが外で行われる。教会で祈り、公園で休み、レストランで食事をし、広場で談笑するということになるのである。」
- 「わが国では伝統的に(略)家族を中心に一軒ごとに内的秩序を保ってき」ており、「内的秩序には外的秩序にはない親密感や安心感があり、住む人々に仲間意識やくつろぎを与えてくれる。」
- 「西欧のように外から内に向かったの統一の方法もあるであろうけど、わが国の場合、内から外への統一の方法も十分に考えられると思うのである。」建物内部にいる者にとっては、「前面道路のような、自分の家と深いかわりあいをもっている部分を内部化して「内部」と考えてみる。さらに領域を拡大して、町内まで内部化して「内部」と考えてみる。」ことができる。

～「街並みの美学」(芦原義信著、岩波書店)～

3.4 公共空間活用に対する意識（日本と西欧の相違）

【文献より】

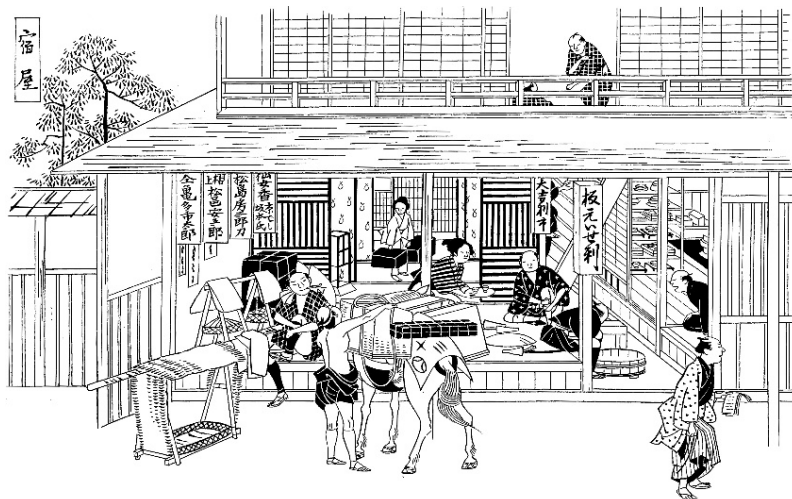
- 建物の外部にいる者の視点から考えると、昔の日本では、店の多くは「住居と店とが一つの屋根の下にあり、(略)家の造り自体が開放的なので、客は店頭で買い物をしながらも、奥の部屋で食事をしている家族の様子をかいま見ることもあ」る。
- 旅籠は「ふつう、通りに面しており、開放的なただずまいを見せている。そして、いかにも旅籠らしいなごやかな雰囲気が漂っている。日本では、いたるところにこのような施設があるので、国内旅行は気楽に寛いだ気分ですることができる。」

～「日本人の住まい」(E.S.モース著、八坂書房)～

- 「祭礼のときには表の建具がはずされることがある。屏風祭りのときなどとくにそうであり、この場合は道行く人に当家自慢の屏風を見せるために、店の間の格子をはずし、そこに屏風を立てる。このほかさまざまな理由で、ハレの日には住宅の家の建具や格子がはずされる。」

～「日本の広場」(都市デザイン研究体編著、彰国社)～

江戸時代 旅籠



倉敷屏風祭



画像・写真出典：(左) 三谷一馬 絵 (右) 京あそび 屏風祭り展 in 倉敷

3.4 公共空間活用に対する意識（日本と西欧の相違）

■ 西欧と日本の意識等の相違点

※「風土－人間学的考察－」(和辻哲郎著)、「街並みの美学」(芦原義信著) を事務局にて整理

		西 欧	日 本
自然		<p>夏に乾燥(暑さと湿気が別)⇒雑草・害虫・洪水等災害が少ない</p> <p>自然が人間に対して従順、 自然に対して支配的(自然を人工的に支配)</p> <p>人間中心的な立場の創設、人間の活動の激成</p>	<p>夏に高温・多湿⇒雑草・害虫・洪水等災害が多い、食物豊穡</p> <p>自然に対して 受容的(人間は単純に自然に抱かれておればよい) 忍従的(自然は人間に対抗を断念されるほどに強大な力)</p> <p>人工的な手段よりも、自然自身の力を巧みに利用</p>
	人間社会	<p>自然だけでなく人間を支配・征服するための闘争が発生</p> <p>自分の生命を護るために、部族を異にする者が団体を結成し、 共同の敵に対して、共同して防衛 共同を危うくすることは自分の存在をも危うくすることになる</p> <p>城壁の内部において利害に基づく個人の間の社交 が行われる 家族もまた経済的利害による個人の結合と理解</p>	<p>生命を危うくする敵を想定して共同する必要がない</p> <p>家族の間での自然な情愛に基づく 距てなき生活を重視 社交的な公共生活を営まない</p>
空間意識	外部空間	<p>個人の社交を行う場として、公共的な場所への関心が高い ⇒ 外部に独立した広場を形成</p>	<p>社会の出来事に関心が薄く、都市を共同的に営もうとしない ⇒ 外部に独立した広場がない</p>
	内部空間	<p>個人の社交を行う場所として、家の内部と外部を区別しない ⇒ 室内でも靴を履く習慣</p>	<p>家の内部と外部を区別し、内部は外部よりも上位の空間秩序 ⇒ 室内では靴を脱ぐ習慣</p>

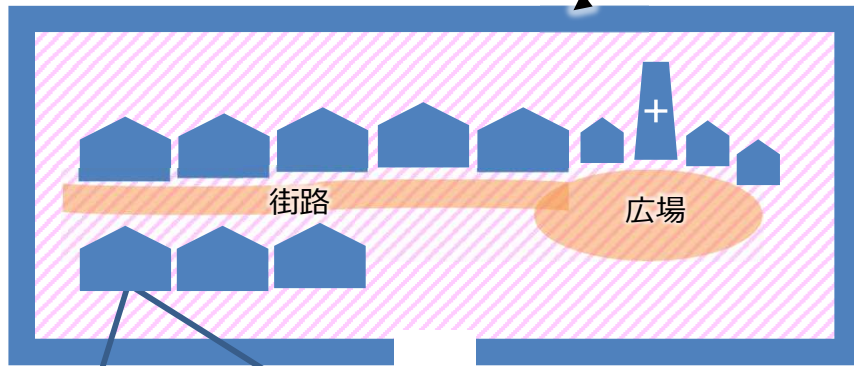
3.4 公共空間活用に対する意識（日本と西欧の相違）

■ 西欧と日本の伝統的な都市・建物のイメージ

※「風土－人間学的考察－」(和辻哲郎著)、「街並みの美学」(芦原義信著) をもとに事務局にてイメージ化

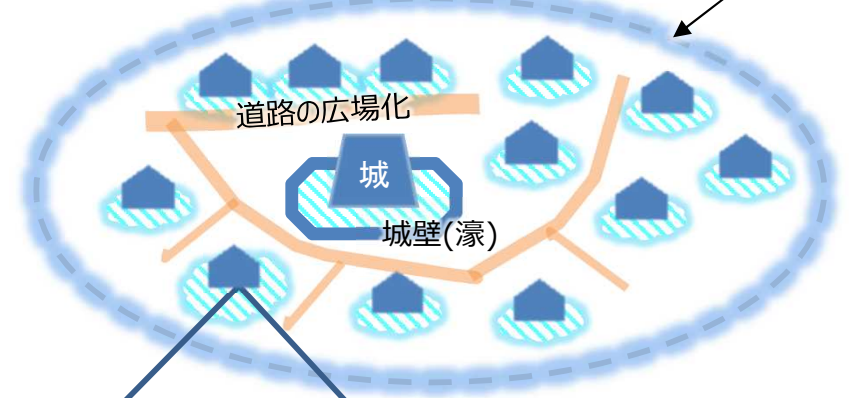
西欧の伝統的な都市のイメージ

都市の境界が明確（城壁）



日本の伝統的な都市のイメージ

都市の境界が曖昧



西欧の建物イメージ

※内部と外部は石造りの壁で明確に仕切られる

建物内部



※外部空間も内部空間も同じような利用をしている（広場の装飾、カフェテラスなど）

日本の建物イメージ

※木造建築のため内部と外部を仕切る壁が薄い（もしくは透過性がある）

建物内部



※建物の近くの外部空間を内部空間のように利用（縁側、縁台など）

靴を履く空間（外的秩序）

靴を脱ぐ空間（内的秩序）

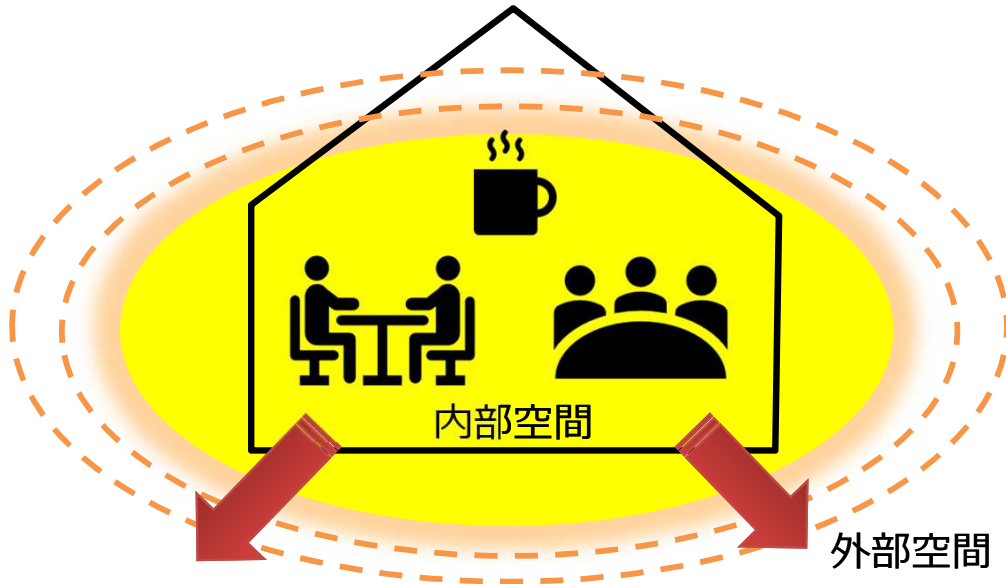
3.4 公共空間活用に対する意識（日本と西欧の相違）

【事務局の理解】

- 日本では、店の間、縁側、旅館の入口、ハレの日の住宅などの境界が曖昧な部分から、わけへだてのない雰囲気が外部ににじみ出ている空間を好む傾向が見られる
- また、境界が曖昧な部分が隣接していなくても、花見をするときのゴザに象徴されるように、外部においても内部にいるようなわけへだてのない雰囲気が味わえる空間を好む傾向が見られる

日本の空間意識イメージ

～内できつろぐ・内を外にひろげる（にじみだす）～



3.5 日本における公共空間の使い方の特徴（総括）

【公共空間の使い方の歴史】

- 江戸時代における広場的な空間の中では、屋台等の様々な装置を持ち込み、仮設的な使い方がされており、プレイスメイキングに近いことを行っていた



概念編②で述べたクラフトの概念や実践⑩で述べた管理しやすい仕組みに通じるものがあり、現代の日本でも受け継ぐべき要素

【日本の気候への対応】

- 他国に比べて、日本の気候は一年間の移り変わりが激しい
- 屋外では雨に降られることが多く、夏の直射日光を避ける必要がある



実践⑫で述べた日陰（屋根）をつくることがポイントになり得るあわせて、季節・時間の違いを踏まえた使い方を設定する工夫が必要

【日本と西欧の公共空間活用に対する意識の違い】

- 西欧に比べて、日本はどちらかということと家族を中心として内にくつろぐ傾向がある一方、内を拡大して外を楽しむ傾向がある



外の居心地の良さに繋げるには、実践⑬で述べた境界を曖昧にする工夫や、建物の足元と隣合う屋外空間を一体的利用するような工夫が必要

3.5 日本における公共空間の使い方の特徴（総括）

日本でのプレイスメイキングにおいては、

- ・縁側・庇 等に象徴される境界の曖昧性・空間の伸縮性 を公共空間にセットし、
- ・その空間を状況（気候等）に合わせて仮設的・可變的に活用する

ことがポイント

スターバックス 鎌倉御成町店



中之条町ふるさと交流センター「つむじ」

